

中野区基本計画
無作為抽出区民ワークショップ
報告書

(令和元年9月1日・7日開催)

中野区

1. 実施概要

実施趣旨

現在、中野区では、「中野区基本構想」の改定に取り組んでおります。新しい基本構想は、10年後に目指すべき中野のまちの姿を描くものです。

また、基本構想の改定に合わせて、新しい基本計画の策定にも取り組んでいきます。基本計画は、基本構想で描く基本理念やまちの姿の実現に向け、区が取り組むべき方策を明らかにする計画です。

新しい基本計画に、より広範な区民の声を反映するため、区民ワークショップを開催しました。

区民ワークショップは、無作為抽出した区民約 2,000 人に案内を送付し、参加者を募りました。

基本構想や基本計画の策定にあたって、無作為抽出した住民を対象としてワークショップを実施することは、近年、多くの自治体で行われており、以下のような特徴があります。

- ・従来の希望性の意見交換会等には参加しなかった方にも、新たに区政に参加していただくきっかけとなる。

- ・無作為抽出で参加者を選出することにより、より一般の区民感覚に近い意見を聴くことができる。

- ・参加者に、地域への関心を深めてもらうことができ、地域の活性化につながる。

中野区でも、こうした特徴を踏まえて、区民ワークショップを実施しました。

実施結果

【第1回】9月1日(日)午後1時～午後5時

場所 中野区産業振興センター 大会議室

参加人数 男性 7 名 女性 24 名 計 31 名(8 グループ)

【第2回】9月7日(日)午後1時～午後5時

場所 中野区産業振興センター 大会議室

参加人数 男性 7 名 女性 25 名 計 32 名(8 グループ)

※「ワークショップの成果物としての意見のまとめ」「参加者アンケート集計結果」については別紙資料をご参照ください。

参加者の内訳

年齢	男性	女性	合計
20代	0名	3名	3名
30代	1名	2名	3名
40代	1名	8名	9名
50代	2名	7名	9名
60代	1名	2名	3名
70代	0名	2名	2名
80代	2名	1名	3名
合計	7名	25名	32名


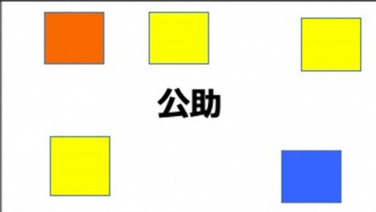
2. 実施1日目(9月1日)について

(1) 導入

はじめに、中野区基本構想担当課長から「中野区基本構想・基本計画の位置付け」「区民ワークショップの趣旨」について説明を行い、今回のワークショップの実施がなぜ必要か、どのような位置付けの場にご参加いただいたか、ということをお伝えしました。

また、全体ファシリテーターから「ワークショップの進め方」「4つのテーマごとの成果物のイメージ」について説明を行い、2日間の基本的な進め方(ポストイットと模造紙を使って、個人ワークとグループワークを交互に行う)、参加者としてのどのようなアウトプットをつくっていくか(テーマごとに「自助・共助でできること・やりたいこと」「サポート役としての公助(行政)に期待すること」「大切にしたい3つのこと」を模造紙にまとめる)、ということをお伝えしました。

4つのテーマごとの成果物のイメージ

テーマ①～④	
 <p>自助・共助</p>	 <p>公助</p>
<p>大切にしたい3つのこと</p> <p>① _____</p> <p>② _____</p> <p>③ _____</p>	

中野区基本計画区民ワークショップ資料

39

4つのテーマは以下の通りです。

- ① 安心して産み育てられるまち
- ② これからの地域コミュニティ
- ③ 健康に暮らし続けられるまち
- ④ 災害に強いまち

4つのテーマごとの対話の基本的な流れは、以下の通りです。

- ① 現状・課題や中野区の取り組みについてのレクチャー
- ② 「自助・共助でできること・やりたいこと」をポストイットに各自記入(個人ワーク)
- ③ ポストイットの内容をグループで共有・対話対話(グループ共有)
- ④ 「サポート役としての公助(行政)に期待すること」をポストイットに各自記入(個人ワーク)
- ⑤ ポストイットの内容をグループで共有・対話(グループ共有)
- ⑥ テーマにおける「大切にしたい3つのこと」の絞り込み(グループワーク)

また、各グループに1~2人の区職員が進行のサポート役(グループファシリテーター)として参加していることをお伝えして、ワークショップの仲間のひとりとしてご一緒いただきたいということをお伝えしました。

(2)参加者自己紹介

対話に入る前の一時的な信頼関係の構築のため、「わたしのライフヒストリー」というテーマでグループ内での参加者自己紹介を行いました。

ポストイットの扱いに慣れていただくことも含めて、以下の4つの項目をポストイットに記入いただいて、それをもとにひとりずつ3分程度の時間をとって丁寧に自己紹介する時間をとりました。

- ① 出身地・生い立ち
- ② 中野区在住歴
- ③ マイブーム
- ④ ワークショップに参加した理由

非常になごやかに、笑いも起きるような自己紹介が行われていました。

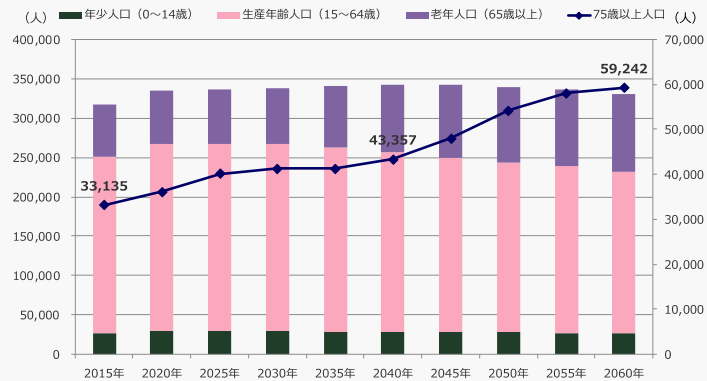


(3) 中野区の主な特徴と取組

テーマごとの対話に入る共通の前提として、中野区全体の主な特徴と取組について、人口動態を中心に説明しました。

人口推計（年少、生産年齢、老年）（長期推計）

将来人口は、生産年齢人口が減少し、老年人口は増加すると推計される。75歳以上の人口が、概ね一貫して増え続け、2060年には約5.9万人となると推計される。



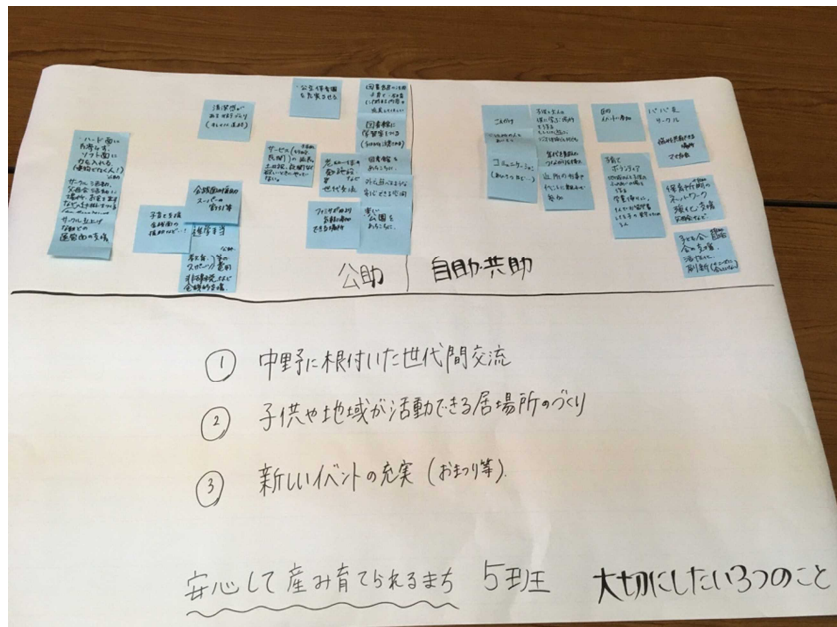
2015年は、2015年1月1日住民基本台帳人口
2020年以降は、2019年1月1日住民基本台帳人口を基準に推計

(4) 安心して産み育てられるまち

1つめのテーマとして、「安心して産み育てられるまち」について対話を行いました。関心が高いテーマであるのか、はじめから活発に意見が出され、会場全体が盛り上がりました。

特に以下のような意見が多く見られました(詳細は別紙資料をご参照ください)。

- 地域の交流・コミュニティが重要
- まずはあいさつ・知り合うことが大切
- 子どもの安心・安全を守りたい
- 受け取りやすくわかりやすい情報発信をしてほしい
- 親子が集まれる施設・一時預かりの施設などを充実させてほしい

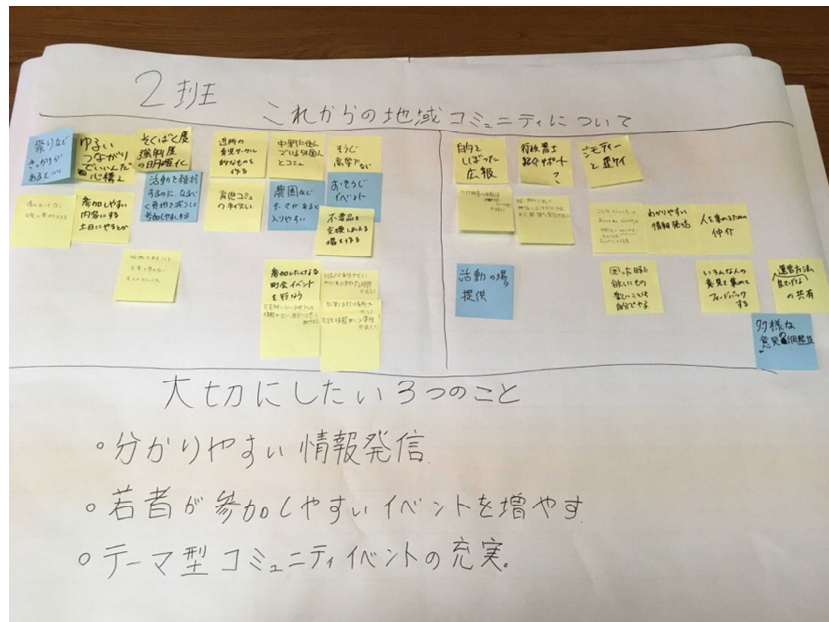


(5) これからの地域コミュニティ

2つめのテーマとして、「これからの地域コミュニティ」について対話を行いました。特に共助のあり方について盛り上がり、様々な意見が共有されました。

特に以下のような意見が多く見られました(詳細は別紙資料をご参照ください)。

- 自分の特技や興味を生かして、無理せず続けられる関わり方をしたい
- テーマ型コミュニティを増やしていくことが重要
- 時代にあった形に町会が変化していくことが求められている
- 参加しやすいイベント・きっかけがほしい
- 公助にコーディネート役・情報発信・資金や資源の提供を期待している



(6) 全体共有

各テーブルにマイクをまわし、「2つのテーマの“大切にしたい3つのこと”」「1日を通した感想」を発表いただきました。

各グループから挙げた感想は以下の通りです。

- ① 年代も働き方・環境がバラバラな人たちだったが、話してみると同じような思いであることがわかり、学びになった。
- ② 私はいま育児中で、どうしても同じ立場の人と話すことが多い。こういった場で違う立場の人と話せることで、考え方のバランスが取れて勉強になった。公助・行政サービスへの要望などを考えてしまうことが多いが、自分たちで何ができるかということを考えることも必要だと思った。
- ③ 在住40年になるが、こういう機会をいただいてますます良い中野になってほしいという期待が高まった。
- ④ 地域であたたかい目で見守りあえる、支え合えるコミュニティがつくられていくと良い。大好きな中野について語り合えて楽しかった。
- ⑤ 中野のことを知らずに来て、現状のデータなどが助かった。来週も楽しみにしている。
- ⑥ 中野区のことを全然わからず、この機会に考えてみたいと思って参加した。いろいろな人の意見に触れて、とても楽しかった。
- ⑦ いろいろな世代の人たち、区職員と話せたことはとても良い勉強・良い機会になった。
- ⑧ 中野が好きなメンバーが集まっていた。どうしたらもっと良いまちに変えていけるかということを真剣に議論できた。もっと開かれた行政になっていくことを期待しているので、こういう機会をまたつくってほしい。

3. 実施2日目(9月7日)について

(1) 導入

1日目と同じくワークショップの目的・位置付けや進め方・成果物についてご説明し、1日目の成果物・意見のまとめを紹介し、簡単なふり返りを行いました。

(2) 参加者自己紹介

1日目からはグループを変更したこともあり、改めて「わたしのライフストーリー」というテーマでグループ内での参加者自己紹介を行いました。

- ① 出身地・生い立ち
- ② 中野区在住歴
- ③ ワークショップに参加した理由
- ④ 最近びっくりしたこと

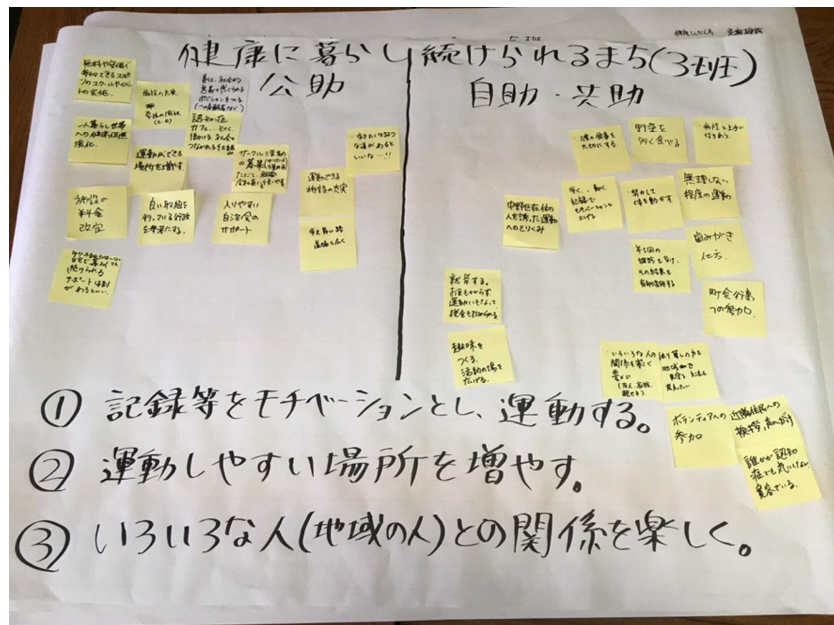
1日目の参加者は全員が出席されたこともあり、みなさんにも慣れが生まれ、さらに活発にスムーズな関係づくりができていました。

(3) 健康に暮らし続けられるまち

3つめのテーマとして、「健康に暮らし続けられるまち」について対話を行いました。つながりが健康に大きく影響するという共通理解もつくられ、共助についての意見が多くあがり、その前提で公助のサポートへの期待もあげられました。

特に以下のような意見が多く見られました(詳細は別紙資料をご参照ください)。

- まずは運動や食事、生活習慣などの自助に気をつけたい
- つながり・コミュニティをつくることが重要
- 公助に活動・団体・人を結びつけるコーディネートを期待している
- 行政からの情報発信や健康診断受診の啓発などを求めている

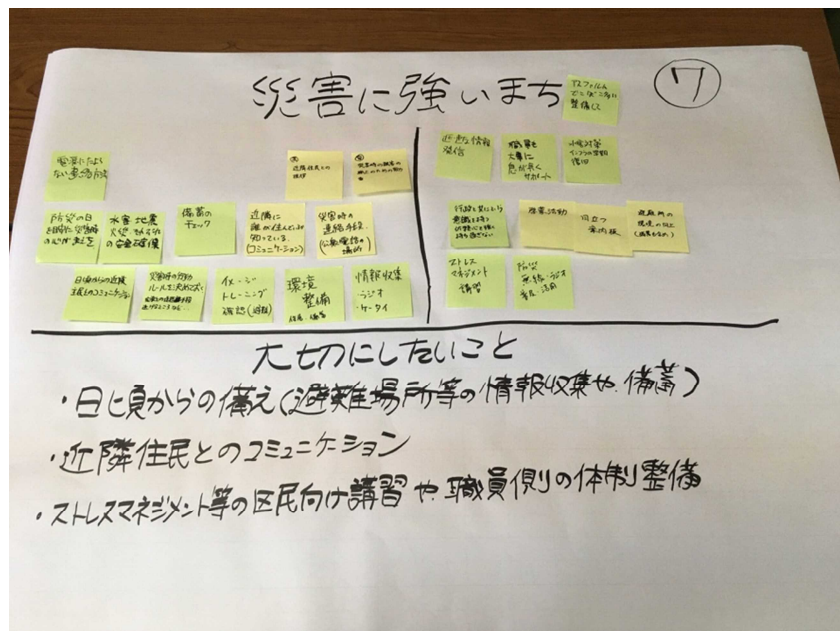


(4) 災害に強いまち

4つめのテーマとして、「災害に強いまち」について対話を行いました。参加者自身の危機感・防災意識が高まり、自分ごとに引きつけた、災害発生時も想定した真剣な意見交換がなされていました。

特に以下のような意見が多く見られました(詳細は別紙資料をご参照ください)。

- 情報収集や防災グッズなどの自助について意識・行動を確認したい
- 日常の近隣住民や防災訓練への参加を大事にしたい
- 行政からの情報発信や様々なイベントで啓発活動を行なってほしい
- 空き家・道路・防災施設などのインフラ対策が必要
- 災害発生時の避難所運営や情報発信について公助に期待している



(5) 全体共有

各テーブルにマイクをまわし、「2つのテーマの“大切にしたい3つのこと”」「1日を通した感想」を発表いただきました。

各グループから挙げた感想は以下の通りです。

- ① ただなんとなく応募して参加だったが、みなさんと話をすることで各テーマが大切なことなのだとわかった。参加してすごくよかった。
- ② 最初は4時間・2日間は長いかと思ったが、参加してみたらいろんな世代の人がいて様々な意見が聞けて、時間があっという間でした。こういう機会があればまた参加したい。
- ③ 8年中野に住んでいたが、あまり区のことを知らなかったなので、良い経験になった。ひとり暮らしなので、様々な区民・職員と話す機会もなかなかない。参加してよかった。
- ④ 年齢も性別も様々で、どのテーマも楽しく有意義に意見を出せた。2日間のワークショップで出てきた、ポストイットのひとつひとつの意見がおもしろいと思った。まとめの部分だけではなく、具体的なアイデアもぜひよく見て検討してほしい。
- ⑤ みなさんすごく考えている人たちが多くて、それを日常生活の中で知る機会がなかなかない。それを自分たちから知る・出会うことも難しいので、こういう機会に呼びかけてもらえるとてもありがたい。
- ⑥ ガチガチなテーマではなかったので、いろいろな意見が出てきてよかった。学べたことも多く、特に自助・共助に関する情報は知る機会がなかった。基本構想・計画に関わらず、こうした場を継続していただくとありがたい。
- ⑦ 普段生活している中では同じような人との会話がほとんど。いろいろな世代・いろいろな意見の人と率直に話せたことがよかった。特に近隣住民とのつながりが大切だということに気づかせてもらった。
- ⑧ 中野区に引っ越して日が浅いが、区のことを知ることができてよかった。職員の人とも話せて、身近に感じられた。友達同士だとこういう話は愚痴のようになってしまいが、今回は前向きに対話ができとてもよかった。

3. 2日間を通して

2日間を通して、立場や世代を超えた対等で活発な対話が行われました。

事前の想定以上に、参加者のみなさんが自助・共助、特に地域のつながりや支え合いについて必要性を感じていることがわかりました。サポート役としての公助への期待についても、共助の推進を前提とするもの、情報発信の強化について多くあがりました。

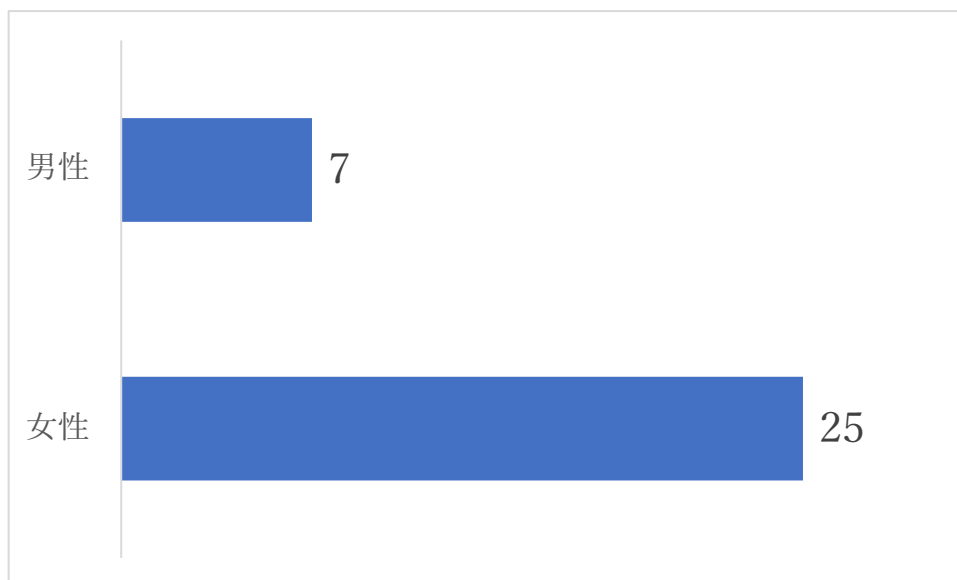
アンケート結果(別紙資料をご参照ください)を見ても、参加者のみなさんにとって、「中野・地域社会のことを改めて考えることができる」「区政・区役所職員との距離感を縮める」「対話から学び・気づき・楽しみを得られる」といった価値があることがわかります。

今後ますます「協働」「コーディネート」の重要性が高まる中で、非常に示唆に富む対話の場であったと思います。

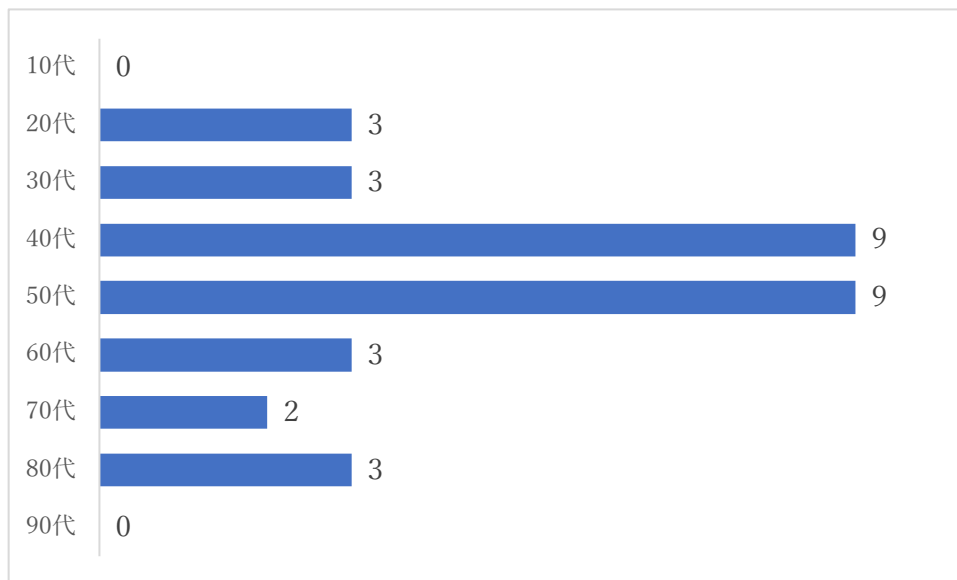
基本計画 無作為抽出区民ワークショップ アンケート結果まとめ

(1)性別、年齢、職業

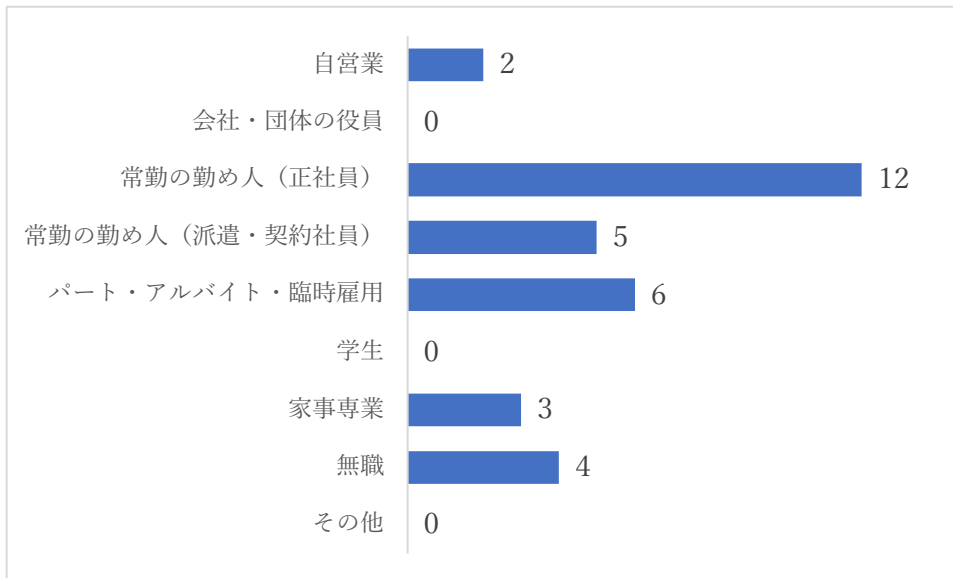
あなたの性別は、どちらですか。



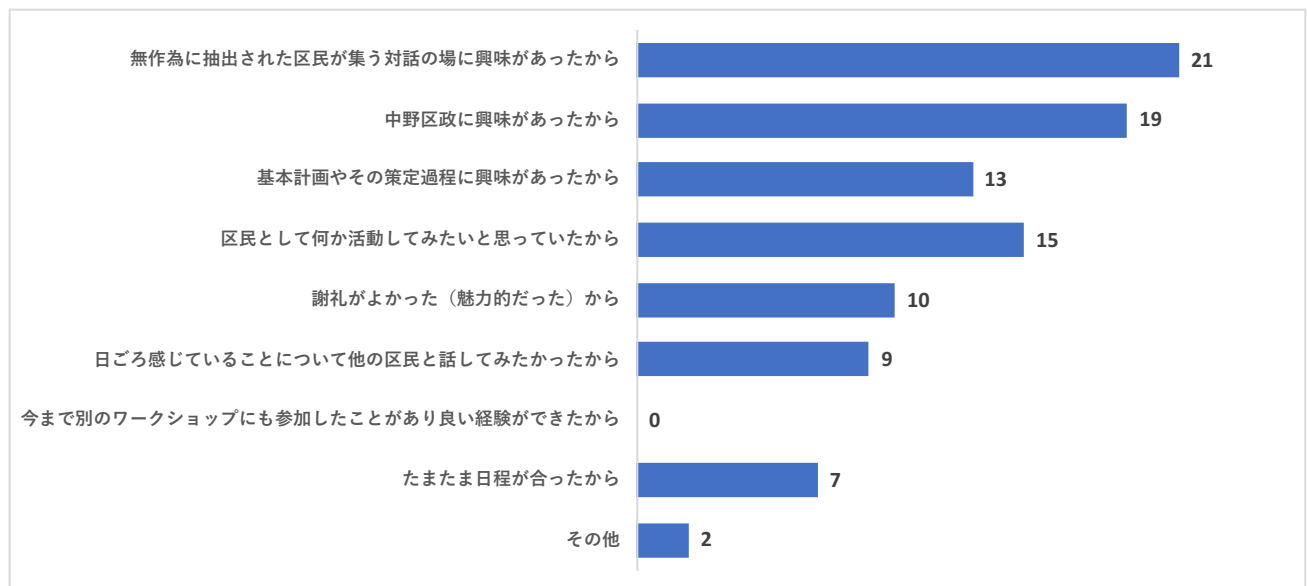
あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。



あなたの職業は、次のどれにあてはまりますか。



(2) ワークショップに参加を決めた主な理由を教えてください(複数回答可能)

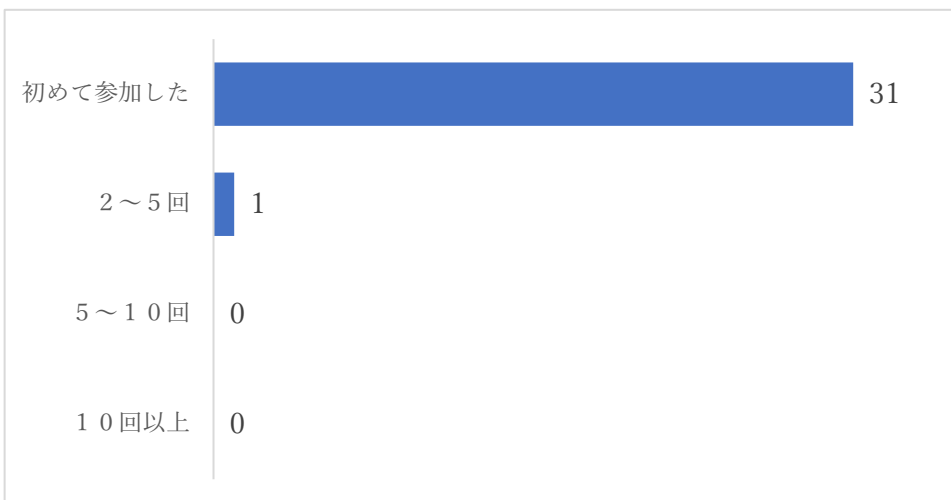


その他

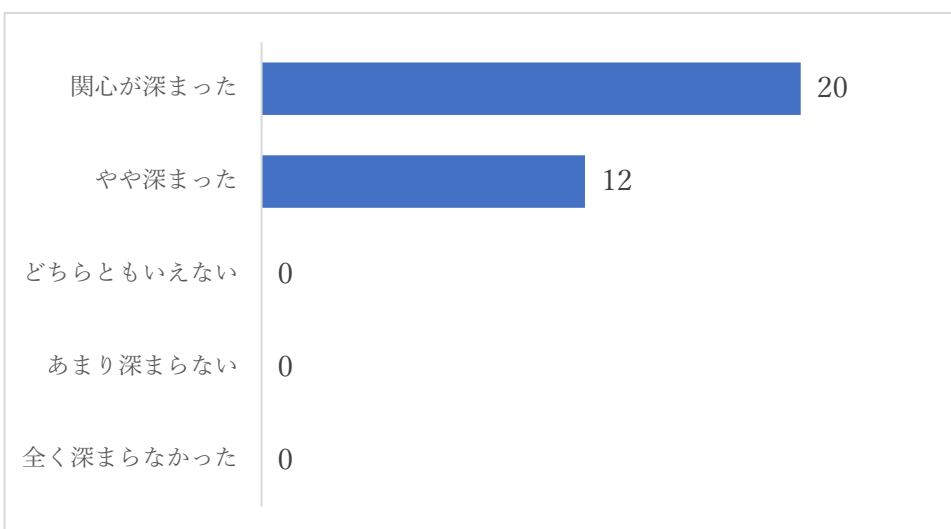
・なんとなく

・中野のことを知らないので知りたいと思った。

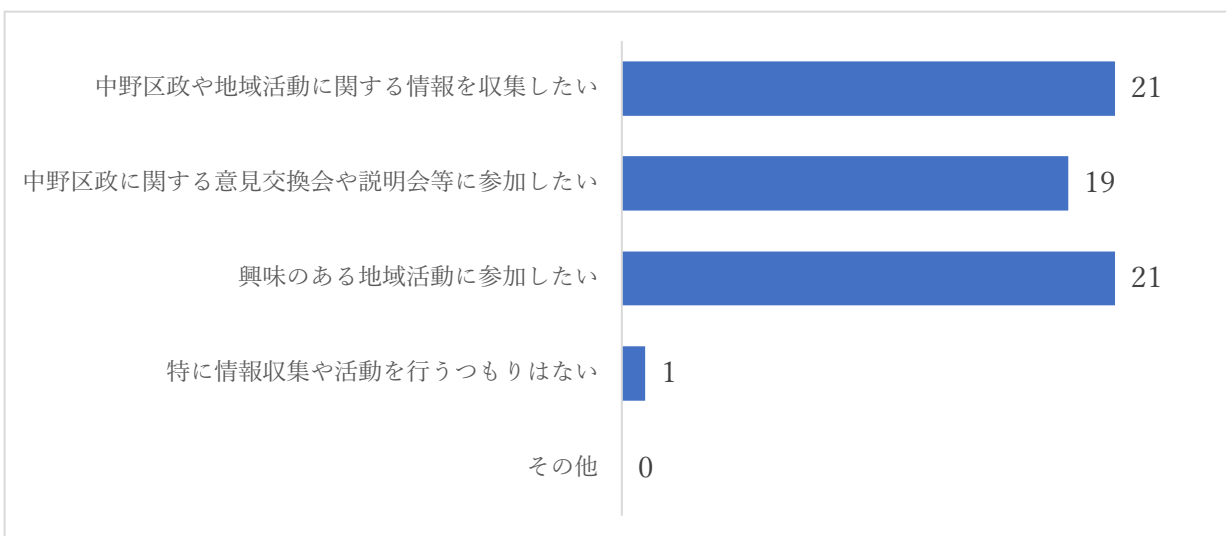
(3)これまでの中野区政に関する意見交換会や説明会等への参加状況を教えてください



(4)ワークショップに参加したことで地域や行政への関心に変化はありましたか



今後、次のような活動に参加したいですか(複数回答可能)



(5)ワークショップの満足度を教えてください(0~100%)

平均 90.5% (70~100%)

満足度の理由・感想などを教えてください

- ・話しやすい環境でした！
- ・いろいろ知ることができました。
- ・とても充実した時間でした。また参加したいです。
- ・みんなが尊重する感じであった。
- ・普段接することのない住民の方や区の職員の方と意見交換することができてよかった。
- ・貴重な話が聞けた。
- ・区民として生活して分からなかったことを色々知るきっかけになりました。
- ・中野区を良くしたいと思っている方々とお話しできてよかった。
- ・初めてお会いした方々ともテーマに沿って自由に意見を出し合えて有意義な時間でした。
- ・普段お話しすることのない方のお話を聞くことができて非常にためになりました。
- ・初めてだったので新鮮
- ・日頃聞けないような意見や情報に触れることができて貴重な時間となりました。
- ・実際に中野区役所で働いている方と話せた。中野区に住んでいるいろんな世代の方と意見交換できた。
- ・グループワークに不慣れな・向いていない職員もいた(自己主張強い)。
- ・新たに災害など考えたいと思いました。地域でこのようなことができるといい。
- ・色々な情報を得られたこと・様々な方とお話できて色々な考えがわかった。
- ・日常接することの少ない方々と、テーマ討論できて良かった。
- ・世代・性別・住環境が違う人といろいろ話せて良かった。
- ・色々な意見が聞けて勉強になった。話し合う前にスライドで説明された基本情報を事前に教えてもらったのもっとたくさん意見を出せたかもしれないと思った。
- ・このような機会が初めてで他の人の考えを聞くことができた。
- ・最初に中野区の現状を教えてもらったのも勉強になり、テーマもほどよく多岐にわたっていろいろ考えられてよかった。
- ・満足度は高いです。次回も良いものにしていただきたいと、-10%。
- ・様々な世代の方の意見を聞くことができて、とてもいい時間となりました。お話を言える場はないのでこのような機会は有意義であると考えます。
- ・時間が足りないくらいに思えた。テーブルごとの区職員のファシリ能力により議論の深まりも変わった。2日目の方が良かったです。
- ・普段は会えない方々の意見を聴けた。
- ・テーマがわかりやすい。住んでいる街がよくなってほしいという共通の中でよかった。
- ・中野区について知ることができて、また地域のことを意見交換できたので良かったです。
- ・幅広い年代の方と意見交換し、自分の刺激にもなったから。
- ・他の人も同じように感じていると知ってうれしかった。

(6)ワークショップの進め方について、ご意見・ご感想などあれば教えてください

- ・とても良かったです。
- ・分かりやすく、ストレスがなかったです。
- ・最初は長いかなと思いましたが、あっという間でした。
- ・職員が入っていたので、発言なども上手に順番をまわしてもらえてよかったし、でしゃばらず立場をわきまえていてよかった。グループもいろいろな年代・立場で2日間別々でよかった。
- ・丁度良い進め方だった。
- ・4つのテーマに沿ってグループ分けして話し合いをできたこと、とてもよかったと思います。今後、生活していく中で2日間学んだことを参考にしていきたいと思います。
- ・それほどお金が必要と思わないので 8,000 円もと思った。こんなに頂いてしまって申し訳ない。おかしいらない。
- ・区の職員の方がグループに入ってくくださったのはスムーズに進められてよかった。
- ・時間に余裕があってよかった。
- ・意見がどこに行くのか具体的に知りたい。
- ・臨機応変に対応いただいて、進行は良かったと思います。
- ・はじめにアイスブレイクがあったのは良かった。時間的に深さ的にも、初対面の人同士が話すのにちょうど良かったと思う。
- ・スムーズでよかった。
- ・時間配分も良かった。
- ・成果物作成はわかりやすかった。ポストイット記入はとても参加しやすかった。
- ・テーマに沿って話し合う時間が短いと感じた。
- ・よく練られていた。申し分なし。
- ・全員が自分の意見を出せる形だったのでよかったと思う。進行役で区の職員の方がいたのもとても良かった。
- ・進行の仕方もうまかったと思います。職員の方々立派です。区民のために働いてくださることがわかりました。
- ・トレーナーの方が自分のお話で和ませてくださったり、堅い感じでなく進んだので楽しかったです。
- ・初めてお会いする方々との WS でしたが、楽しく話し合うことができましたと思います。
- ・ワークのポストイットをしっかりと見ていただけたらうれしいです。
- ・付箋を使い、スムーズに進めることができたといいと思います。
- ・区職員の方との対話の場として、自主＝民主を再認識。
- ・ゆったりした時間割で十分各自の意見を言うことができました。
- ・人数はちょうどよかった。世代が分かれており意見が貴重なものが多かった。
- ・最初、長時間だとどうかなと思っていたのですが、思っていた以上に楽しく充実していて短い時間に感じました。
- ・大変わかりやすかった。

(7)ワークショップでは伝えられなかったご意見、その他ご意見・ご感想などあれば教えてください

- ・選ばれた理由が、無作為抽出 2,000 人とは知らなかったです！
- ・もっと近所や地域の方、町内会の方と触れ合う機会を持ちたいと改めて感じる事ができました。
- ・今後もこのようなワークショップが実施されることを期待しています。
- ・グループの人数をさらに増やして話し合いをできたらと思いました。
- ・区議会議員さんの意見や見学があるといいなと思った。
- ・区役所の方々が手際よく書いてくださって大変よかった。素晴らしい方々でした。文字が美しい、言葉遣いが美しい。
- ・職員さんおつかれさまでした。ご自愛ください。
- ・貴重な時間をいただき、ありがとうございました。
- ・災害時の「区ができること・できないこと」はしっかり伝えてほしい。それによって生きるか死ぬかが決まってくることでもあるので・・・。
- ・区議会議員や区長も参加してくれないの、区民の声聞きたくないの。
- ・妙正寺川は合流式ですか？たまにすごく臭い時があるので分離式になるといいと思います。
- ・よりよい区にするために住民の声をさらに積極的に聞いてほしい。
- ・区政の計画など、知る機会を増やしてほしい。
- ・今以上に住み良い、住民が協力し合える街になれるよう、自分も努力していこうと思った。
- ・区民の意見を吸い上げる場というだけでなく、区民が区政に興味を持ち考える場としてもワークショップは有用だと思ったので、これからも定期的継続的に行ってほしい。
- ・今後もやられた方が良くと思います。
- ・ぜひ今回出た意見が反映されると良いなと思います。今後もこのようなざっくばらんな機会があると良いです。
- ・子どもや高齢者の方だけではなく、若く、働く世代にも目を向けてください。
- ・「中野大好きナカノさん」は少し驚きました。
- ・みんなに聞いて、3択で決めるなどの方法も良いのではと考えます。
- ・教育・子育ては1日あってもよいぐらいのテーマだと思います。
- ・継続して開催してこの中の意見が形になると素晴らしいと思います。
- ・ゴミ問題・ポイ捨てなど住民だけでは解決するのが難しいです。ご近所トラブルにもなりやすいので、良い方法があればと思います。

中野区基本計画ワークショップ
成果物（意見まとめ）

安心して産み育てられるまち

大切にしたいこと

地域の交流・コミュニティ (共助)

共助を中心として、非常に多くの意見があがり、その面への公助からのサポートへの期待も多くありました。

- ・新しいイベントの充実（おまつりなど）
- ・地域でつながり見守る仕組みの再構築（ネットワークづくり、見守りカード）
- ・人とのつながりの場や機会
- ・子育て世代同士が交流できる・支え合える場・機会
- ・子ども同士も交流し、互いに成長・尊重できる場・機会
- ・つながり・コミュニティをつくる機会の提供（場所・イベントなど）
- ・地域団体等へのサポート
- ・地域コミュニティの強化
- ・子どもや地域が活動できる居場所づくり
- ・中野に根づいた世代間交流
- ・多様な世代でみんなで子どもたちを育てる
- ・地域住民とのつながり・コミュニティ

近所のあいさつ・見守り (共助)

まずはあいさつから、という声が多くありました。また、地域での見守りについても多くの意見があがりました。

- ・お互いを知るきっかけづくり
- ・きっかけをさらに継続する活動（あいさつ・見守り）
- ・あいさつしやすい土壌づくり

施設・公園など (公助)

公共施設や公園の充実を公助に期待する意見が多くありました。

- ・施設の整備・維持
- ・子どもの遊び場の充実（公園、児童館）
- ・人が集まる魅力ある場所の創出

情報発信 (公助)

子育てに関する情報発信や、わかりやすい制度の説明などが公助に期待されていました。

- ・情報を受け取りやすく伝えやすい環境
- ・サービスの充実とその周知

安心・安全 (公助)

共助としての見守りほか、子どもの安全を懸念する意見が多くあり、公助による道路などの整備が求められました。

- ・安全・安心なまちづくり

保育 (公助)

保育園・待機児童への関心が高く、また児童館や一時的な預かりによって親の負担を軽減することが求められました。

- ・短期間でも安心して預けられる場所

夫婦 (公助)

夫婦間の家事分担や、父親の育児参加など、自助としての家庭内の取り組みについての意見も見られました。

- ・家事分担プランをつくり夫婦で協力

安心して産み育てられるまち

自助・共助

地域の交流・コミュニティ

- ・子どもや親が参加しやすいイベント（2）
- ・地域の人たちとのイベント（3）
- ・子ども食堂（2）
- ・ただの飲み会ではない納涼祭
- ・地域遠足・親子ハイキングの企画
- ・児童館・図書館のイベントサポート
- ・週末学習サポート
- ・子育てボランティア
- ・子どもと大人がともに学ぶ・遊ぶ場をつくる
- ・地縁の強化
- ・地域で支え合う仕組み（2）
- ・地域に集まったり相談できる場をつくる
- ・地域住民同士のつながりをつくる（3）
- ・年代を超えたつながりを持つ
- ・子ども会
- ・子ども・自治会の活性化・刷新（ニーズに合っていない）
- ・子どもが集まる活動の活性化
- ・駄菓子屋みたいな子どもが集まる空間
- ・近所の子どもの短い時間だけ預かる
- ・単身世帯を巻き込んだ交流
- ・学校を含めた地域交流の場
- ・ファミサポのハードル下げる

近所のあいさつ・見守り

- ・近所での日常のあいさつ・声かけ（11）
- ・にっこりと顔を見合うことでも良い
- ・地域での見守り（2）
- ・通学路の安全見守り（3）
- ・安心・安全なまち（2）
- ・登下校時の声かけやあいさつ
- ・町の人でみどりのおじさん・おばさん
- ・見守り市民ランナールート
- ・普段から子どもの安全に気を配る
- ・出産したてのママへの声かけ

まずは知る

- ・お祭りなどの地域行事を通して、家族状況をつかむ
- ・近所に何人くらい子どもが住んでいるかぐらいは把握しておきたい
- ・関わりがないため子どもがいる人を知る

夫婦間

- ・男女別の家事プランをつくる
- ・共働きは夫参加絶対！

親同士・相互相談

- ・親同士で育児に関する情報交換（2）
- ・ママ友同士で支え合う（3）
- ・パパ友サークル
- ・保育園内ネットワークの強化
- ・親同士のつながり・ネットワークをつくる
- ・母親教育の場（セミナーなど）
- ・気軽に相談できる機会や場づくり
- ・子育て世代だけではなく子育てを終えた世代と相談できる場
- ・一般の人が複数で面倒を見られる場所（子育てしたことない人も関わられる）

制度の効果的な活用

- ・制度をフルに活用する
- ・自分の時間を取れるように、家族・友人の力を借りたり、一時保育を利用する
- ・行政のサービス利用（一時預かり）

課題

- ・何をしたら良いのかわからない
- ・私学通学児童が地域とのコミュニティを持つ方法が難しい
- ・男性の子育てへの知識の低さ
- ・虐待のあいまいさ
- ・ファミリーサポート（協力したいと思っているが不安）

安心して産み育てられるまち

公助

団体・活動へのサポート

- ・子ども食堂への補助金や場所の提供
- ・人と人・団体と団体との橋渡し
- ・支援したい人としてもらう人のコーディネート
- ・ママ友・パパ友マッチング（アプリやイベント）
- ・子育てリーダーの運営・悩みを聞いたりアドバイス
- ・サークル活動・父母会活動に場所・お金を出すなど仕掛けをつくる
- ・サークル立ち上げなどの運営面の支援
- ・集まる場所の予約のしやすさ
- ・共助の経費の下支え

つながる機会・場づくり

- ・気楽につながれる場・機会（4）
- ・同じ年齢の子どもと遊ぶ機会づくり
- ・地域運動会など子・親同士の交流の場づくり
- ・楽しいイベント（自転車安全教室、スポーツ関連）
- ・ラジオ体操の企画
- ・中高生のしゃべり場づくり
- ・小中高生が赤ちゃんに触れる場
- ・小・中学生の老人ホームへの訪問
- ・老幼一体の施設など世代交流
- ・シルバー人材の活用

金銭面の支援

- ・金銭面の援助（2）
- ・産みたい人の支援
- ・2人目以降の出産時の支援
- ・子育て支援券事業
- ・進学手当
- ・外国人児童へのサポート

施設・公園など

- ・公共施設の整備（2）
- ・公園の拡張・整備（2）
- ・公園に遊具が充実してほしい
- ・楽しい公園をあちこちに
- ・広くて自然豊かな公園がほしい（大人も子どもも楽しめ休憩スペースもある）
- ・遊び場の充実（公園・ランチができる場所）
- ・子育て・教育への図書館の活用
- ・図書館をあちこちに
- ・図書館に学習室をつくる
- ・小学校の空き教室利用
- ・各駅の活用
- ・ハード面に偏らずソフト面に力を入れる

情報発信

- ・情報発信（4）
- ・制度・サービスをわかりやすくしてほしい（4）
- ・区役所からサポートの案内（引越しや届出のタイミング）
- ・子育て・教育の情報共有の場・ツール
- ・情報シェア&蓄積するポータル
- ・困っていることと解決する方法をつなぐシステム（LINEなど）
- ・小さなイベント等の情報提供
- ・何をしたら良いかわからない人向けの案内
- ・ハードルが低いというアピール
- ・短時間の時間提供を仕組み化

安心・安全

- ・安心・安全なまちの環境づくり
- ・車禁止エリアで子どもが遊べるように
- ・安心して歩ける歩道（3）
- ・ベビーカーや子どもと安心して歩けるまち（2）
- ・交通事故を減らすためのインフラ整備
- ・清潔感があるまちづくり

保育・相談

- ・保育園の増設・待機児童ゼロ（6）
- ・保育園の質の担保
- ・子育て専門者が自分の子育てをしながら働ける保育所
- ・短期で子ども安心して預けられるところをつくる（2）
- ・児童館等の機能の充実
- ・児童館の今時っぽい活用
- ・学童の習い事オプションをつける
- ・本当に必要な時に依頼できる24時間体制サポート
- ・行政・民間サービスの延長（土日祝・夜間などほしいときにやっていない）
- ・気楽に行ける相談窓口
- ・妻が妊娠中に母子手帳をもらいに行く時、夫婦そろっての面談
- ・子ども検診の時にパパ会・ママ会に分けての話し合い
- ・家庭保育をしている人への支援
- ・ママ友の代行役（レンタルママ友）

住環境

- ・住宅環境の整備（単身世帯の集合住宅が多すぎる）
- ・中野の住環境を前提とした教育
- ・24h空いているスーパーがもっとほしい

これからの地域コミュニティ

大切にしたいこと

心構え・関わり方 (自助・共助)

自分自身の心構え・適切な関わり方や、地域のあり方について考えられた意見が見られました。

- ・あいさつなど自分でできることで地域とつながる
- ・住んでいる人が不便を感じない地域づくり

テーマ型コミュニティ (共助)

地縁だけではなく、テーマや世代でつくる、新しいコミュニティの形が重要だという声が多くあがりました。

- ・テーマ型コミュニティイベントの充実
- ・若者向けの出入り自由な集まり

参加しやすいイベント 参加のきっかけ (共助)

どのようなイベントやきっかけなら人がコミュニティに関わるか、という点について、非常に多くのアイデアが出されました。

- ・若者が参加しやすいイベントを増やす
- ・ターゲットを明確にした今後もつながれるイベント
- ・住んでいる人が参加したいと思えるイベントの企画
- ・場や機会の提供
- ・これまでずっと続いてきたお祭りなどを大事にしつつ、新しいテーマのイベント
- ・参加するためのインセンティブ
- ・地域に関わりたいと思えるインセンティブを

困りごとのサポート (共助)

共助として困った時に支え合える関係性をつくりたいという意見があがりました。

- ・困った時に頼りあえる

町会活動 (共助)

時代に合わせて町会が変化していくことへの期待が多く語られました。

- ・得意なことを活かせる町会活動（自主性・やらされ感の提言）
- ・町会・自治会を今の時代に合った形へ

情報発信・施設・場所 (公助)

重要性・公助への期待として、情報発信についての意見がどのテーブルでもあがっていました。

- ・情報の発信
- ・わかりやすい情報発信
- ・情報発信は事前に、対象別に媒体を使い分けて
- ・適切な情報拡散とその方法
- ・世代にあった情報提供
- ・集まれる場所の確保

コーディネート サポート・アドバイス (公助)

公助に対して、コミュニティをつなぎ支えるコーディネート・サポーターの役割が期待されていました。

- ・集まりやサークル立ち上げのための支援（アドバイザーによる運営スキルの伝達など）

これからの地域コミュニティ

自助・共助

心構え・関わり方

- ・得意なこと・知識を生かす（3）
- ・趣味を生かして貢献
- ・地域に興味を持つ
- ・ゆるいつながりでいいんだという心構え
- ・近所に住む外国人に気楽に声をかけられる勇氣
- ・まず顔を知る
- ・近所のお店で買い物
- ・自分たちで決められるルール
- ・細切れの時間を出し合える
- ・やれる「こと」と「時間」がより小さな単位で組み立てられる
- ・負担が過度ではない、しかし困った時や必要なことでつながれる
- ・新たな転入者もウェルカムな雰囲気
- ・負担の強いられないコミュニティ

困りごとのサポート

- ・困っている人を気軽にサポートする掲示板
- ・散歩の手伝い
- ・高齢者の見守り
- ・知っている人なら声かけ
- ・小学生の帰り道の見守り

参加しやすいイベント 参加のきっかけ

- ・子ども＋親の社会参加への糸口
- ・若い世代が集まるイベント
- ・慣れ合いでなく気楽に参加できる
- ・参加しやすい内容・日時
- ・趣味やとがったテーマの集い
- ・社会科見学
- ・不用品を交換しあえる場をつくる
- ・本の交換・譲渡会
- ・おそうじイベント（2）
- ・お祭り（2）
- ・インディーゲームプレゼン会
- ・歌、体操、朗読、歴史
- ・苗木の配布
- ・映画上映会&感想宴会
- ・同年代の交流
- ・ラジオ体操（2）
- ・おいしい食事をともにする場
- ・地元を熟知するためのイベント
- ・映画やスポーツ鑑賞
- ・マラソン大会
- ・防災訓練

連携

- ・自治会とサークル活動の連携
- ・町会・自治会・保護者会・子ども会などの連携

テーマ型コミュニティ

- ・趣味・共通トピックで地域とつながりたい（3）
- ・テーマ型コミュニティに関する情報の拡充
- ・興味があること別のコミュニティ
- ・孤独であることを不安に思わない大人のコミュニティ
- ・近所の育児サークル的なものをつくる
- ・育児コミュニティのお手伝い
- ・ハンドメイド&販売コミュニティ
- ・強制力があまり強くないコミュニティづくり
- ・ワーキングママコミュニティ
- ・受験ママコミュニティ
- ・生涯学習できる場をつくる
- ・ウォーキングサークル
- ・ペットコミュニティ
- ・保護犬・猫ビジネス
- ・地域猫についての活動ならできるかも
- ・子どもとお年寄りのふれあいの場づくり
- ・中野に住んでいる外国人とのコミュニティ
- ・ゲストハウスの運営や交流

町会活動

- ・町会活動の近代化
- ・旧態依然の自治会・子ども会の改革
- ・出入りが自由
- ・怖くない団体（情報がないと怖い）
- ・束縛度・強制度の明確化
- ・活動を維持するのに、なるべく負担を減らして参加しやすくする
- ・単身・マンション住まいでも町会に参加してみたい
- ・参加したくなる町会イベント
- ・外国人を地域コミュニティに巻き込む

課題

- ・町会加入の必要性がない
- ・行事に参加する時間がない
- ・区政情報に必要性がない
- ・若い世代がおもしろいと思う情報がない
- ・住んでいる人が不便を感じない地域づくり
- ・善意が不安にかき消されない仕組み

これからの地域コミュニティ

公助

情報発信

- ・地域イベント情報の発信（3）
- ・自治会活動の特集
- ・地域でやっているイベント等の発信用のチラシづくり
- ・区便りを活用して発信
- ・定期的な町会参加へのお知らせ・重要性の発信（2）
- ・地域の役割の存在の広報・参加促進
- ・インターネット情報発信の強化
- ・あの人、がわかる情報
- ・在住・在勤社への周知
- ・中野区民だからこそと思える環境づくり
- ・地域の危険な場所の周知

イベント・場づくり

- ・魅力あるイベントの企画（3）
- ・まちあるきイベントの開催・広報
- ・お祭り好きな区民性を活用
- ・定期的なタウンミーティング
- ・イベントの拡張（休日や夜間）
- ・広場を使ってイベント
- ・大学や企業と連携して若者向けのイベント（2）
- ・朝大学など若い単身者向けの集まり
- ・テーマ別ワークショップ

コーディネート

- ・ゆるい援助・協力の調整
- ・ニーズを集めて地域ボランティア活動を立ち上げる
- ・ファシリテーターとしての役割
- ・コミュニティの紹介・マッチング
- ・町会活動参加スタンプラリー
- ・大学との連携
- ・地域イベントをつなげる仲介
- ・職員がまちへ出て、地域の人と一緒に活動して、本当の要望を知る・体感する
- ・行政と町内会の連携
- ・独居者への介入
- ・町会・自治会と単身者・外国人の橋渡し

サポート・アドバイス

- ・地域コミュニティへのアドバイス
- ・町会活動の平準化とサポート
- ・ルールづくりの援助
- ・成功事例の提供・助言
- ・外国人との共生に向けたサポート

金銭・資源の支援

- ・資金提供
- ・文化面の費用の援助
- ・中央図書館のビデオを町会に貸出
- ・イベントがしやすいように貸出等を充実させる
- ・まちの人の学びの場の経費を区が負担する仕組み
- ・多様な助成制度
- ・書類の簡略化

施設・場所

- ・気楽に集まれる・やりたいことができる近所のスペース（2）
- ・活動場所の提供（2）
- ・インフラの充実
- ・人が集まれる場所の増設
- ・テニスコートを増やしてほしい
- ・空き家を上手に活用
- ・保育園の地域密着
- ・犬・猫などペットが遊べる公園を増やしてほしい
- ・道路・公園のデザイン
- ・サッカーできる場所

健康に暮らし続けられるまち

大切にしたいこと

運動 (自助)

運動習慣への意識づくりについては、まずは自助の基本として多くの方が話していました。

- ・定期的に運動をする
- ・記録等をモチベーションにして運動する
- ・出歩きたくなる気持ち
- ・適度な運動としっかりした食事による自己管理

情報発信 (公助)

他のテーマとも同様ですが、区からの情報発信を期待する意見は多く見られました。

- ・情報提供のサポート（受動的でも情報が入るように）
- ・行政からの情報発信（定期健康診断やイベント）の工夫・充実
- ・区民検診等の広報の強化
- ・必要としている情報の発信

コミュニティのサポート コーディネート（公助）

活動・団体・人を結びつけるコーディネートやサポート役が公助に期待されていました。

- ・様々な活動を結びつける支援や仕組み
- ・高齢者が社会と接点を持てる環境づくり
- ・健康づくりのための意識向上・参加のための支援

健康診断・医療・福祉 (公助)

健康診断や医療・福祉の充実を求める意見が見られました。

- ・健康診断受診率UPにつながるサポート
- ・健康相談をしやすい環境づくり

つながり・コミュニティ (共助)

つながり・社会参加で健康をつくるという意識が高く、非常に多くの意見やアイデアがあがっていました。

- ・いろいろな人（地域の人）との関係を楽しく
- ・地域コミュニティの活性化
- ・自分の好きなことを通じて、地域や人とのつながりを持つ
- ・定期的なイベントを通じて、地域での支え合い

施設・場所 (公助)

運動やつながりづくりのための場所の整備を行政に期待する声が見られました。

- ・運動しやすい場所を増やす
- ・出歩けるようになるインフラ整備・健康の支援
- ・住民同士がつながることのできるような場所の提供
- ・歩きやすくて、きれいなまち

イベント・場づくり (公助)

行政主導による魅力的なイベントや場づくりを求める声もあがっていました。

- ・健康関係イベントの定期的な開催
- ・区内全域で、様々な人がつながれるイベントを増やす

健康に暮らし続けられるまち

自助・共助

運動

- ・運動習慣をつける（6）
- ・できるだけ徒歩で移動する（3）
- ・どこへ行くにもなるべく自転車
- ・歩く・動く記録でモチベーションを上げる
- ・なるべく休日も外に出る
- ・ヨガを続ける
- ・ラジオ体操（2）

食事

- ・自炊をする
- ・よく噛んで食べる
- ・野菜を多く食べる
- ・バランスの良い食事
- ・3度の食事を大切にする（2）

つながり コミュニティ

- ・社会と関わりをもつ・つながりを大切に（3）
- ・孤独にならない
- ・興味のあることにどんどん参加してみる
- ・いろいろな人と関係を楽しく豊かに
- ・気軽に参加できるイベント・コミュニティ（5）
- ・人と会う機会を逃さない
- ・趣味・活動を広げる・楽しむ（2）
- ・関わりを持った人を大切にする
- ・近所でのあいさつ・声かけ（6）
- ・ご近所さんとの気軽な会話
- ・様子が変わった人を見かけたら各機関に報告
- ・誰かが認知症でも気にしない・寛容でいる
- ・家族と話す時間を長くとり
- ・SNS等でネット上での友人をつくる
- ・仲間づくり
- ・町会・自治会活動への参加（2）
- ・地域の伝統行事への参加・協力
- ・ボランティアへの参加（3）
- ・市民農園
- ・外国人にルールを教える
- ・犬の散歩
- ・お料理教室（2）
- ・親へのご機嫌うかがい

生活習慣

- ・歯磨きの仕方
- ・生活リズムを一定にする
- ・スケジュールをつくる・守る
- ・健康的な時間の使い方のバランス
- ・就労する
- ・人のために尽くす（仕事）
- ・楽しい・ワクワクすることをする
- ・ストレスをためない
- ・予防に力を入れる
- ・音楽で豊かに
- ・買い物を楽しむ
- ・商店街で買い物
- ・季節を感じる
- ・喫煙マナー
- ・落ちているゴミを拾って捨てる
- ・困っている時どうすれば良いか

健康診断・医療

- ・年1回の健康診断を受けてその結果を有効活用する（3）
- ・区民検診を忘れずに受ける
- ・職場の健康診断の活用
- ・病院の情報を知りたい
- ・かかりつけ医を決める（2）
- ・病院と上手に付き合う
- ・漢方・中医学を広める

健康に暮らし続けられるまち

公助

情報発信

- ・区の施策やイベントの周知（5）
- ・まちの病院の情報（本音のやつ）
- ・誰でも参加できるイベントの案内
- ・出かけない人にも届くような発信
- ・情報のわかりやすい提供・口コミも
- ・健康維持のプログラムをつくりJCOMで放送
- ・健康や習慣の教育
- ・認知症の知識の普及啓発
- ・医師会のHPをわかりやすく
- ・ゴミ捨てマナーの徹底

施設・場所

- ・イベントやコミュニティへの場所の提供
- ・みんなが集まれる場を増やす（4）
- ・運動する場所（公園・スポーツセンター等）を増やす（3）
- ・集まれる食堂（2）
- ・料理できる場所の提供
- ・施設の料金改定（2）
- ・学校の開放（土日）
- ・すこやか福祉センターの有効活用
- ・歩きたくなる・歩きやすい道（5）
- ・緑を増やしてほしい（2）
- ・公園の整備

コミュニティのサポート コーディネート

- ・区民とサークル活動等をつなぐコーディネート
- ・みんなのやっている「良いこと」をつなぐ仕組みづくり
- ・ボランティアマッチング（2）
- ・運営に関するスキルやコーディネート
- ・自治会・町会の世代交代
- ・世代間のギャップを埋めて地域活動を強化
- ・入りやすい自治会のサポート
- ・サークル活動の募集（会社員にも使いやすい）
- ・コミュニティの役割の見直し
- ・働ける・社会とつながれる仕組み
- ・責任・社会的意義を感じられる役割をつくる
- ・高齢者の活用・仕事づくり（2）
- ・良い取り組みを行っている他の行政を参考にする
- ・区内の大学の協力でスポーツを盛り上げる
- ・民間とのジョイント（2）

イベント・場づくり

- ・いろいろなイベントの開催（7）
- ・スポーツイベントを多く企画
- ・健康促進イベントの開催
- ・メンタルタフネスなどのセミナー・講習会など
- ・友人ができる場の提供
- ・まちあるきイベント
- ・公園でのヨガ大会
- ・子ども・シニアではない人へのイベント
- ・独居者を対象にしたイベント
- ・南地区を忘れないで

健康診断・医療・福祉

- ・健康診断の受診率UPなどサポート（4）
- ・健康診断の年齢を下げしてほしい
- ・健康診断の場所の提供
- ・健康診断に加えて体力チェック
- ・健康に関するアプリ等の開発・提供（ポイントの付与など）
- ・体重減ったら何かくれる
- ・ひとり暮らし世帯への健康促進強化
- ・24時間受け付けてくれる歯医者
- ・大病院に通う人とそうでない人の整理
- ・うつのサポート
- ・医療ネットワークの充実
- ・不自由な体になっても自宅で暮らし続けられるサポート体制
- ・飲食店も健康重視のメニューを豊富に
- ・子どもの食事・食費についてのチェック・サポート
- ・ひきこもり・独居老人の家庭へのサポート

災害に強いまち

大切にしたいこと

情報収集・確認・学び (自助)

災害への危機意識が高まり、まずは情報を収集し、自分や家族が知っておくことが大事だと話されていました。

- ・避難先の確保・確認（近場・遠場）
- ・災害についての情報を知っておく
- ・日頃からの備え（情報収集や備蓄）

防災グッズ・備蓄 (自助・公助)

個人・行政それぞれに防災グッズなどを備蓄し続けておくことが重要だという意見が多くあがりました。

- ・日々の暮らしの中での防災の意識（備蓄など）
- ・備蓄・メンテナンス（食料や飲料水）
- ・備蓄・生活環境などを定期的に見直す
- ・継続的に保険・備蓄など災害への備えをする
- ・個人・行政での備蓄

日常のつながり 防災訓練（共助）

まずは近隣住民・地域とつながること、そして防災訓練などに参加することが重要だという声が多くあがりました。

- ・近隣住民とのコミュニケーション
- ・地域とのつながりを深める
- ・防災訓練の充実・強化（強制化など）
- ・防災訓練への参加・器具の使い方チェック

情報発信 (公助)

行政からの情報発信が継続的になされ、災害発生時を想定して常に更新し続けることが重要だという意見がありました。

- ・災害発生時のシミュレーション（過去の震災からの教訓）
- ・災害発生時を想定した情報発信と防災訓練
- ・非常時の情報を行政が常に発信・更新すること

防災訓練・イベント (公助)

防災訓練に限らない様々なイベントの開催を期待する意見がありました。

- ・防災イベントの開催
- ・ストレスマネジメント等の区民向け講習や職員側の体制整備

インフラ (公助)

インフラ整備への期待も大きく、道路・空き家などをはじめとした整備が必要とした意見があがっていました。

- ・インフラ整備（道路・情報・電気ガス水道）
- ・木造・空き家対策を行う
- ・放送設備の改善
- ・行政による減災のための金銭的支援
- ・災害に強いインフラを備える

災害発生時 (公助)

災害発生時を想定した様々な意見も、共助・公助それぞれの面でも出されて、特に速やかな情報発信を求める声が多くあがりました。

- ・災害時にいろいろな形での情報発信を速やかに
- ・災害時の情報発信

災害に強いまち

自助・共助

情報収集・確認・学び

- ・避難先を確認（10）
- ・防災ハンドブックを読む（2）
- ・災害時の行動ルールを決めておく（2）
- ・防災の日を目安に災害時の心構え
- ・危険な場所を知っておく
- ・家族の連絡手段・集合場所を確認
- ・子どもへの教育
- ・住んでいる場所のハザードマップを理解する
- ・連絡方法の確認（2）
- ・生活圏内の地理を把握するため歩いてみる
- ・災害に関する情報整理（2）
- ・普段から災害に対する危機意識を持つ（2）
- ・トイレの場所も考える
- ・緊急時の連絡手段を確認しておく
- ・スマホは常に手元に
- ・区の情報を地域でポイントで確認できるサイト（中野ケーブル）活用
- ・消火器・消火栓の場所の確認
- ・救助・応急手当の仕方を学ぶ
- ・火災保険・地震保険に加入
- ・行政と共にという意識を持つ、依存心を強く持ちすぎない

防災グッズ

- ・防災グッズの準備（12）
- ・水や食料の備蓄（5）
- ・家族での準備
- ・3日間生きられる食料の備蓄
- ・水・食料を定期的に入れ替え（3）
- ・薬の用意
- ・備蓄・工具の備え
- ・消火器の準備
- ・ペット用の食料も確保
- ・グッズをリュックの中に入れて入り口近くに用意する
- ・トイレの用意
- ・消化器の用意
- ・日中過ごす時間が多い場所にも備え（スニーカー）

日常のつながり 防災訓練

- ・近所に知り合いをつくる・コミュニケーションをとる（12）
- ・地域のつながりの強化（2）
- ・近所で助けが必要と思われる人の把握（2）
- ・近所の独居者を知る
- ・マンション内の意識向上
- ・近隣・自治会内で防災について話し合う
- ・防災訓練への参加（7）
- ・町内会での防災訓練
- ・職場から歩いて帰る練習

家具・家の備え

- ・家具の固定・転倒防止（3）
- ・自宅の中の耐震の見直し
- ・家の中の整理整頓をしておく
- ・室内で怪我をしないための準備
- ・家の中の危険なもののチェック
- ・燃えやすいものを放置しない
- ・風呂水をはっておく
- ・災害に強い住宅を選ぶ・改修する
- ・電源に頼らない連絡方法

災害発生時

- ・食品を分け合う
- ・見て見ぬふりをしない、責任をもって周りの人を助ける
- ・慌てずに行動できるようにする
- ・災害にあった人のパトロール

不安・課題

- ・避難場所が被害にあった時
- ・Jアラート聞こえる？
- ・防災無線が聞こえない

災害に強いまち

公助

情報発信

- ・わかりやすい情報の提供（5）
- ・啓蒙活動
- ・最新情報の常時提供
- ・非常時の仕組みの周知
- ・災害マップの点検・発信（2）
- ・区報の災害特別版
- ・エリアメールの活用
- ・備蓄推進のための呼びかけ
- ・住民への防災意識向上・啓発
- ・人目につく場所に避難所の地図
- ・災害ネットワークづくり・情報提供
- ・大災害発生時の避難ルート
- ・避難ルートの提示（2）
- ・目立つ案内板

防災訓練・イベント

- ・防災施設の見学会
- ・町会レベルの防災訓練の支援
- ・防災訓練の強制化
- ・防災イベントの開催（3）
- ・消火器や消火栓の体験を気軽にできるように
- ・訓練など堅苦しい感じではない防災
- ・四季の森公園での防災運動会
- ・震災経験者の講演会
- ・ストレスマネジメント講習

防災備蓄

- ・防災グッズの配布（4）
- ・最新技術を活用した物資の管理
- ・食料・水の準備
- ・あたたかい食べ物が多いとうれしい
- ・簡易トイレやテントの備蓄
- ・高齢者・子ども向けの備え
- ・災害用の食料試供品の提供

インフラ

- ・避難場所の十分な確保（3）
- ・防災関連施設の充実
- ・防災施設の整備・更新
- ・安全なまちづくり
- ・道路の拡幅（3）
- ・でこぼこの多いアスファルトの整備
- ・老朽化した建築物への防災指導
- ・木造を減らす
- ・木造→耐火への支援
- ・空き家対策
- ・放置されている古い家の撤去・修理にもっと介入してほしい
- ・民間企業との連携
- ・可燃物の放置などの取り締まり
- ・希望に応じて各戸の防災状況点検
- ・防災無線・ラジオの普及・活用

災害発生時

- ・情報の発信基地としての役割
- ・災害時の素早く正確な情報伝達（3）
- ・避難所のスムーズな運営（電力確保など）
- ・避難場所・収容人数についてリアルに想定してほしい
- ・避難所の適切な運営（プライベートスペース、女性、病気の人）
- ・避難所のプライバシーを守る工夫
- ・女性や子どもにやさしい避難所運営
- ・中野区が全部災害にあったら他区の助けを求める
- ・大雨時に早めの指示
- ・無料Wi-Fiや電源の供給
- ・インフラ機能停止シナリオ
- ・災害にあった人のパトロール

災害発生後・復興

- ・災害後の手続きの簡略化
- ・復興を考えた事前の計画づくり
- ・芸能人とか歌手とか元気をもらえる人が会いに来てほしい

不安・課題

- ・大災害のことも想定してほしい
- ・防災訓練に若者をどう巻き込むか
- ・家にいる人にも知らせがあるのか不安
- ・どのぐらいの災害になったら避難するのか、すべての人が避難できるのか
- ・中野区の放送が聞こえない